令和６年度第１回二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会

日時：令和６年６月２０日（水）１３：３０～１６：００
場所：二宮町町民センター　２Ａクラブ室
出席者：１７名
　　原会長、山内副会長、春木会員、池田会員、小林会員、三好会員、齋藤会員、中西会員、北川会員、伊庭会員、藤田会員、岡野会員、杉本会員、古正会員、和田会員、渡辺会員、野谷会員
欠席者：７名
　　石井会員、渡邊会員、宮戸会員、和田会員、藤原会員、
傍聴者：０名
配布資料：・次第
・資料１－１　2024 年度版小中一貫教育関連テーマ経緯
・資料１－２　二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会　経過（概略）報告
・資料２　202209 品川学園見学
・資料３　施設一体型小中一貫教育校における学年ブロックの考え方について
・資料４　施設一体型小中一貫教育校と学校施設
・資料５　提言書素案
・資料６　喫緊の課題と解決のための取り組み
・参考資料１　二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会名簿
・参考資料２　二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会設置要綱
・参考資料３　二宮町附属機関等が開催する会議の公開に関する要綱
・参考資料４　二宮町教育講演会

議事要旨

1.　開会	
事務局	・資料確認 ・傍聴者の確認→無
2.　教育長あいさつ	
	・昨年度から施設分離型小中一貫校として開校した。 ・約 1800 名の児童生徒と約 150 名の教員がオンラインで一度に会し、オンライン始業式を行った。 ・これから先生方の良いところ、持ち味を発揮してより良い教育活動を展開し、にのみや学園のより良いあり方につながると確信している。
3.　自己紹介	
4.　会長あいさつ	
5.　協議	
（1）小中一貫教育関連テーマの経緯と研究内容の概要　（資料 1-1、1-2）	
会長	〈 資料の説明 〉 ・新しい方もおいでなので学校に関する町の取り組みの経緯を説明する。公共施設の再配置計画をもとに学校の数を減らす計画が出され、その後他市町に先駆けてコミュニティスクールになった。小中一貫教育については 2016 年にその推進について説明されている。 ・本研究会は施設一体型小中一貫教育校の設置に向けたものである。 ・分離型と施設一体型の２つの言葉があるが、施設一体型の大きな特徴は、小学校と中学校が一つの建物に入っていることで、メリットとしては、9 年間を通して、子どもたちの自尊感情が育って自信がつく、近い将来のモデルがそばにいることで憧れを持つ、小さい子への思いやりの心が育ったりすることなど非認知能力が育つことである。 ・小から中へといきなり上がる階段がゆるやかになっていくことで中１ギャップが解消されたり、学び進めや学び直しができたりするため学力も向上する。
会員	・施設一体型を目指すことは理解できるが、今の分離型の充実は考えなくて良いのか。ウェブを使うとかソフトの面で工夫できると思うが。
会長	・考えなくて良い、ということではない。分離型の成果を一体型で生かしていくことになる。そういう意味で分離型と一体型は別々のものではない。

	・ウェブでは、生身の子どもどうし、子どもと先生の関りから生まれ成果に限界がある。なので、一体型を目指す。 ・現在、分離型は教育委員会も学校も良くやっている。それはいわば実証実験のようなもの。分離型の良さが一体型に繋がっていく。
会員	・現在分離型が進められているが、その効果はどこかで見られるのか。
事務局	・参考資料４の教育講演会で、学校から教育実践を発表してもらう。
事務局	・日々の取り組みは、町ホームページ掲載の「にのみや学園通信」や学校ホームページで見られる。
会員	・昨年の第４回研究会で教育委員会から分離型の取り組みについて課題も含めてその成果が説明されている。
会員	・自分なりに、子どもたちや先生に聞いたところ、実感がないと皆が言う。もっとソフトの面で IT を使うとか、先生方の負担を減らしながらの工夫ができるのではないか。
会長	・実感がないというのは、以前の研究会でも出されていたしその通りだと思う。子どもの姿になって見えてきて初めて成果と言える。もっと日常的な取組にできれば、子どもたちの言葉からも実感できるようになるのだが。
（２）施設一体型小中一貫教育校と学校施設 **①　先進校の様子（資料２）**	
会員	〈 資料２の説明 〉 ・品川学園を見れば、小中一貫はこれなんだということが分かる。 ・「たとえ隣接していても小学校と中学校の間には見えない壁があると言われたことがある。二宮も同じ。 ・９年間で育てたほうが子どもたちにとってプラスが大きい。 ・広くない敷地に、上手く建てられている。 ・最上階は暑さ対策で天井が二重構造になっている。 ・６年と７年が隣同士。自然に中学校生活に入れる。 ・低学年がすぐに校庭に出られる。 ・多目的に使える階段や図書室、ランチルームがある。 ・廊下の教室のそばに職員コーナーがあって、子どもがすぐに先生のところに行ける。 ・小中一貫の良さが、自然に生かされる校舎のつくりになっている。 ・低学年から授業時間数が多いが、これで子どもは大丈夫か、疑問。時間時間数の多さがの授業が不登校につながっているという意見もある。
会長	・品川学園の先生方の言葉で、「自分たちは小学校の教員、中学校の教

	員だとは思っていない、９年間の教員だと思っている」が印象に残っている。
（２）施設一体型小中一貫教育校と学校施設 ②　施設一体型小中一貫教育校における学年ブロックの考え方（資料３）	
会員	〈 資料３の説明 〉 ・学年を超えて、６－３制を超えて、「見せる・見える・ふれあえる」が日常的になっている。 ・分離型ではカリキュラム研究が進んでいる。一方で交流がイベントとして行われているが、施設一体型は異年齢交流が日常化できる。 施設一体型小中一貫教育校のメリットは以下の通り。 ・異年齢交流を行う等最大９歳差のメリットを生かせる。 ・異年齢交流が日常化できる。 ・上級生から下級生：常に見られているという意識が育つ ・下級生から上級生：将来このようになるという、目的意識が見える。 ・教育的意味のある複数の段差設定をしていて、区切り方にはいくつかあるが、多くは４・３・２制。 ・４・３・２制は、４年生と７年生のところに段差をおくことで６・３制よりリーダー経験を多く体験できる。 ・大原学院では５年生から制服にしてシャキット感を持たせていた。 ・４年生の心身の成長は６－３制ができた当時とは大きく変わっている。６年生で体感していたリーダー性を４年生で体感させる。 ・学校行事の工夫がされている。４年生までの子どもたちで行う運動会で４年生のリーダーシップを育てる。７年生も５・６・７年生のリーダーとして活躍させている。 ・教室の並び方、上級生が常に下級生に見られている。目の端でとらえられる施設の工夫がされている。 ・校務センターが廊下にあって先生も改めて会議しなくても子どもの姿を目の端で捉えられる。目の端で捉える、ということがキーワードになる。 ・多目的に使えるスペースなど、異学年交流が日常的にいつでもどこでも可能になる造りになっている。 ・学年の括り方と、施設の関係は密接である。教室を学年の順に並べれば良いというものではない。
（２）施設一体型小中一貫教育校と学校施設 ③　これからの学校施設に望むこと（資料４）	

会長	〈 資料４の説明 〉 ・学校施設を複合化することで、品川学園のプールのような施設機能の共有化による学習環境の高機能化・多機能化が期待できる。 ・二宮で新しい学校をつくるなら、既存であっても新設であっても９年間だけでなく幼児や高齢者との交流ができる施設、地域の大人の活躍が見える施設、防災拠点の機能を備えた施設、町づくりの核となった学校施設などの事例を参考にできる。
下記３項目について、会員より発表 **１：品川学園について良いと思ったことは何ですか？また、どのような感想を持ちましたか？** **２:子どもたちの成長の様子に照らして、推進計画にもある学年ブロックの考え方（４・３・２）をどう思いますか？** **３：学校施設に関してどのようなことを望みますか？**	
会員	１：現在の分離型は小中交流会とかイベントになっていて非日常的な活動という印象がある。品川学園のように施設一体型になれば日常になり、９年間を通しての活動等自然な形で効果的にされている。 ・９年間を通した学年だと中一ギャップという言葉はなくなるだろう。 ２：・４，３，２については今後考えていきたい。 ・３年間を通してキャリア教育をやっているので、２年間だと不安を感じる。 ・中一になったことを前向きに捉える生徒もいる。 ・分け方は今後考えていくことだと思う。
会員	１：（品川学園には行っていないが）参加者の「そこの施設に行けば、小中一貫がどのように行われているのかが分かる」という言葉が印象的だった。 ２：その経験がないので、賛成も反対も言えない。夢を語り合うよりも実感を持ちたい。
会員	１:校舎の造りは、９年間の成長に応じたものになっていると感じた。 ２：・５，６，７年にあたる部分の７年生は中１ギャップをなだらかにする意図はあると思うが、同じ敷地内にいると単に７年生となってしまう印象も持っていた。しかし、工夫で成長に必要なギャップを作れることが分かった。 ・低学年には刺激が少なくなるように、大きな子たちはまわりから見えるように工夫されていた。

	・多目的に使える造りはこれからの教育にとって大事。
会員	１：わくわくした気持ちになった。密接な関係があるのは良いことだと思った。一色小では、１年生と６年生、２年生と５年生、３年生と４年生を隣どうしにし、高学年低学年が日常的に触れ合えている。 ２：正解は分からないが、現時点でも先生方はその都度、どのように子ども達に意識づけていくのかが、大切だと思った。
下記３項目について、Ａ～Ｄのグループに分かれ、グループごとに発表 **１：品川学園について良いと思ったことは何ですか？また、どのような感想を持ちましたか？** **２:子どもたちの成長の様子に照らして、推進計画にもある学年ブロックの考え方（４・３・２）をどう思いますか？** **３：学校施設に関してどのようなことを望みますか？**	
グループＡ	1 ・自立精神が抜群に育てられるのが良い。 ・わが子が入学して幼稚園とのギャップを感じた。箱に閉じ込められたようだと思った。１，２年生の教室が校庭に直接~~窓から~~アプローチできるのが良い。 ・先生方のスペースが廊下にあるのが良い。ナースステーションのように、分からないことをすぐに聞きに行ったりできる。 2 ・リーダー学年も３回経験できるのはメリット。 ・子ども達のスムーズな成長が期待できるのではないか。 3 ・日本人は説明が苦手だが、これからの子どもたちに必要な力。品川学園の「舞台」のように、子どもたちに発表の場、意見を戦わせられる場を設けてほしい ・平日使われていないラディアンのホール等で発表の練習ができたら良い。施設の多機能化を二宮でも考えられると良い。 ・教育以外の機能を持たせると、安全性の確保が難しくなるかもしれない。
グループＢ	1 ・４年生が仕切る運動会を見てみたい。 ・上級生が鍵付きロッカーを持てるのは良い。 2 ・身体の成長が早くなってきている。国語の教科書を見ても４年生後

	半から悲しい物語があることからも分かるように４年生のところに成長の区切りがあるのでそこで学年を区切る。 3 ・地域との共有スペースが持てると良い。
グループＣ	・いつ施設一体型小中一貫教育校になるのかが分からないので、見通しを知りたい。とにかく計画を見せてほしい、作ってほしい、ということに尽きる。
グループＤ	1,3 ・小中一貫教育校の学年制度と学校施設は密接な関係がある。 ・今からできることをやっていこう。(学校施設がまとまった段階で、空いた施設を改修するなど) ・できるだけ早く施設一体型を新設するのが良い。 2 ・学年制度（４－３‐２と６－３）はどちらが良いか悪いか分からない。 ・学年間のギャップは自然に薄れていく。施設一体型になると、風土や空気感が醸成されてギャップがなくなっていくのではないか。
会長	・今日出た意見を提言書に組み込んで行きたい。 ・資料５については、要点をまとめたものであり、素案検討会でまとめている最中。 ・資料６については、中と高の優先度をつけた。 ・これらの課題に関して施設一体型がどういう意義を持っているのか、どういう解決策につなげられるのかという分析も提言書の中に入れていく。
事務局	・本日の会議録は、皆様にご確認いただいた後、ホームページで公開する予定 ・今後の日程については、メール等で調整させていただく。
４．閉会	